

令和 2 年 5 月 14 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K03624

研究課題名(和文) 組織における情報伝達の問題：組織内条件と市場条件

研究課題名(英文) Problems of Information Transmission in Organizations: Within- Organization  
Conditions and Market Conditions

研究代表者

清水 崇 (Shimizu, Takashi)

神戸大学・経済学研究科・教授

研究者番号：80323468

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：組織内において効率的情報伝達が行われるための条件を、組織内条件と市場条件に分け、戦略的情報伝達理論やサーチ理論の枠組みを用いて分析した。組織内条件としては、情報の受け手が追加的情報を得ることによる「確認効果」により情報伝達の効率が向上する可能性を明らかにした。市場条件としては、退出オプションが情報伝達に対して与える影響が正の場合、負の場合、そして中立の場合がそれぞれあり得ることが具体的なモデルとともに示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

組織における情報伝達の問題という、古くから知られている問題を、戦略的情報伝達理論やサーチ理論といった比較的新しい手法を用いて分析したところに本研究の意義はある。その際に、組織内条件と市場条件という新たな切り口で問題にアプローチしたことは組織の経済学に重要な貢献を与えた。また現実的な設定で問題を分析していることにより、こうした学術的意義がそのまま現実の組織の運営に具体的な含意を与えている。

研究成果の概要(英文)：I analyzed the conditions for efficient information transmission to occur in organizations. In doing so, I divided them into the within-organization conditions and the market conditions and adopted the frameworks of strategic information transmission theory and search theory. In the analysis of the within-organization conditions, I showed that “confirmation effect,” which comes from the situation in which a receiver of information receives an additional information, can make information transmission in organizations more efficient. In the analysis of the market condition, I presented the models in which the existence of exit option has a positive, a negative, or a neutral effects on information transmission in organizations, respectively.

研究分野：ミクロ経済理論

キーワード：組織の経済学 戦略的情報伝達理論 チープ・トーク 確認効果 退出 発言 サーチ理論



いう既存研究とは異なる結果を導出した。これは、発言の費用と上司の意趣返しが発言行為をシグナリングとして機能させるため、退出オプションの存在がかえって発言のシグナリング機能を弱めるからである。

論文 "How to Really Open the Door: An Economic Analysis on the Risk of Voice" を作成し、国際学会で報告した。この論文ではサーチ・モデルを応用して発言におけるリスクをモデル化した。学問的背景としては、従来の組織論では組織内の発言を阻害する要因として「無益の認識」と「リスクの認識」が議論されており、"Cheap Talk with an Exit Option: A Model of Exit and Voice" が前者を表現しているのに対し、この論文は後者に着目したものである。具体的には、上司が単なる不運と部下の怠慢とを区別できない状況を想定する。これが1回限りの状況だと、部下に努力を促しつつ、正直に組織の状態を報告させるような仕向けることは不可能である。そこで、この論文では以下のような動学的状況を考える。雇用関係はまず良好な状態から始まる。ある確率でショックが起こり、雇用関係は危険な状態に移行する。この状態からは、ある確率でさらに悪い状態に至り、雇用関係は破壊される。しかし部下と上司が努力をすると、ある確率で良好な状態に戻る。ただし、上司は危険な状態にあることを観察できないので、上司の努力を促すためには部下は状態を正直に報告する必要がある。以上のような状況での上司にとっての最適賃金契約を論文では求めている。得られた具体的な結果として、部下に市場で得られるよりも高い価値をもたらすような賃金契約を提示することによって、部下にも雇用関係の価値を内部化させることが出来、努力と報告の両方を促すことが可能になることが明らかになった。また Hirschman (1970, 1987) の議論とは異なり、このような組織内の状況では退出オプションが意味のないことも示された。

- (3) また "Equilibrium Selection in Monetary Search Models: An Experimental Approach" (神戸大学神谷和也氏、関西大学小林創氏、大阪府立大学七條達弘氏との共著) を作成し、国際学会で報告した。この論文は貨幣サーチ・モデルにおける均衡選択の問題を経済実験で検証したもので、当研究課題の市場条件を分析するに当たり重要な示唆を与えた。

#### 参考文献

Richard M. Cyert and James March, *Behavioral Theory of the Firm*, Blackwell, 1963.

Vincent P. Crawford and Joel Sobel, "Strategic Information Transmission," *Econometrica*, 50(6): 1431-1451, 1982.

Albert O. Hirschman, *Exit, Voice, and Loyalty: Responses to Decline in Firms, Organizations, and States*, Harvard University Press, 1970.

Albert O. Hirschman, "Exit and Voice," *The New Palgrave: A Dictionary of Economics*, vol. 1, Macmillan, 1987.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Junichiro Ishida and Takashi Shimizu	4. 巻 68
2. 論文標題 Cheap Talk when the Receiver Has Uncertain Information Sources	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Economic Theory	6. 最初と最後の頁 303-334
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s00199-018-1123-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takashi Shimizu	4. 巻 46
2. 論文標題 Cheap Talk with an Exit Option: A Model of Exit and Voice	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 International Journal of Game Theory	6. 最初と最後の頁 1071-1088
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s00182-017-0571-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Takashi Shimizu
2. 発表標題 Equilibrium Selection in Monetary Search Models: An Experimental Approach
3. 学会等名 第23回実験社会科学カンファレンス（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takashi Shimizu
2. 発表標題 How to Really Open the Door: An Economic Analysis on the Risk of Voice
3. 学会等名 The 2nd Japanese-German Workshop on Contracts and Incentives（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 清水崇
2. 発表標題 Equilibrium Selection in Monetary Search Models: An Experimental Approach
3. 学会等名 日本経済学会2017春季大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----